

## 第 57 回 企業活性化研究分科会・議事録

＜第五七回 2013 年 4 月 13 日（土）時間：13：30～16：00 於：専修大学（神田校舎）＞

参加者：井端、大野、黒川、小林、高市、夏目、浜田、宮川、山本(9名)

### 1. テーマ：X社の財務諸表分析

本分析では、X社の財務諸表をもちいて、どのような財務数値が粉飾を示しているのか、また財務数値からどのような粉飾手法をおこなっているのか、その取引にどのような事実や情報を含んでいるのかについて、検討したものである。つまり、この分析を試みることで、どのような分析視点をもてばよいのか再認識することを目的としている。

粉飾手口には、売上高の前倒し計上、水増し計上、架空計上や、売上原価の付替え、費用の非計上、評価損の過小計上など、純資産の過大計上、資産の過大計上などがある。これら粉飾を見抜くために、回転期間、比率分析などの分析方法を用いて分析をおこない、財務数値の徴候を読み解くための分析視点を研究した。

### 2. テーマ：収益認識の変化に伴う企業業績への影響

(危機管理システム学会年次大会報告の中間報告)

- ・報告者：浜田勇毅 ・配布資料：5枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、収益認識の変化にともない、企業業績への影響を検討したものである。収益認識において、日本の会計基準では実現主義をとり、一方で IFRS の会計基準では販売基準を採用している。今後、日本の会計基準において、販売基準へ移行した場合における企業業績の概念や収益性指標への影響、また業績変化における企業のリスクについて研究したものである。

### 3. テーマ：東日本大震災が企業経営に与えたリスクと損害の中間集計

(危機管理システム学会年次大会報告の中間報告)

- ・報告者：高市幸男 ・配布資料：23枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、2011年3月11日の東日本大震災後、2年たち、その間における中小企業の企業業績の関連指標について、集計および分析をおこなったものである。中間報告では、独自の分析視点から企業における倒産リスク、その兆候を示す指標について考察している。

### 4. テーマ：2013年度の分析企業の検討と分析視点

(文責：宮川宏)